

2025年度 都道府県別 大学・短大進学状況 —補足—



(株)旺文社 教育情報センター 2026年1月

ここでは [表題の資料](#) をよりよくご活用いただくために、資料の見方や各数値に関してご説明します。

各資料共通事項

「大学」「短大」… 国公立大学(通信制は除く)。入学した学部の所在地で集計。

「高校」… 全日制、定時制、通信制(Part.3は除く)、中等教育学校後期課程、特別支援学校高等部。

「その他」… 外国の学校卒や、高認合格者、専修学校高等課程修了者など。

Part.1 都道府県別データ

①P.2 ○○県内の大学への進学者数

その県の大学には、どの県の高校から進学してくるか。つまり、流入状況を表します。

北海道内の大学への進学者数<流入元>
(2025年4月入学者)

北海道の大学には
どの県の高校から
進学してくるか。

合計			男子			女子		
出身高校の 所在地	実人数	各県 大学進学者 における割合	出身高校の 所在地	男子実人数	各県男子 大学進学者 における割合	出身高校の 所在地	女子実人数	各県女子 大学進学者 における割合
1 北海道	14,256	65.6%	1 北海道	7,910	65.3%	1 北海道	6,346	66.0%
2 東京	605	0.8%	2 東京	388	1.0%	2 東京	217	0.6%
3 青森	317	6.7%	3 神奈川	201	0.8%	3 青森	117	5.2%
4 神奈川	310	0.7%	4 青森	200	8.0%	4 神奈川	109	0.5%

「北海道の高校から(北海道の大学へ)」⇒地元進学率を表します。

地元進学率が高いのか低いのか、他県との比較はPart.2でご覧いただけます。

※割合は各県の大学進学者におけるもの(高卒者ではない)。短大等ほかの箇所でも同様です。

②P.4 ○○県内高校の大学への進学者数

その県の高校出身者はどの県の大学へ進学していくか。つまり流出状況を表します。

北海道内高校の大学への進学者数<流出先>
(2025年4月入学者)

北海道の高校出身
者はどの県の大学
へ進学していくか。

合計			男子			女子		
進学先大学 の所在地	実人数	県内 大学進学者 における割合	進学先大学 の所在地	男子実人数	県内男子 大学進学者 における割合	進学先大学 の所在地	女子実人数	県内女子 大学進学者 における割合
1 北海道	14,256	65.6%	1 北海道	7,910	65.3%	1 北海道	6,346	66.0%
2 東京	2,247	10.3%	2 東京	1,225	10.1%	2 東京	1,022	10.6%
3 神奈川	644	3.0%	3 神奈川	344	2.8%	3 神奈川	300	3.1%
4 大阪	499	2.3%	4 大阪	298	2.5%	4 大阪	201	2.1%

「(北海道の高校から)北海道の大学へ」⇒地元進学率を表します。

Part.2 全国共通データ

③P.2 各都道府県の地元大学進学率

その県の高校から同じ県内の大学に進学した人(＝地元進学者)の割合。分母はその県の高校の大学進学者です。各県の地元進学率は①②でも見ることはできますが、それを他県と比較できるのが③です。

④P.4 各都道府県の大学 地元出身者占有率

その県にある大学の入学者のうち、同じ県内の高校出身者(＝地元出身者)が占める割合です。この「地元占有率」は、③「地元進学率」と全く異なります。分子は「地元出身者(進学者)」で同じですが、分母が「高校視点」なのか「大学視点」なのかが異なります。

例：A県の高校の大学進学者＝1万人／大学の入学者＝5,000人／地元出身者(進学者)＝2,500人の場合

$$\begin{array}{l} \text{地元進学率} \\ \text{(高校視点)} \end{array} = \frac{\text{地元進学者}}{\text{A県の高校の大学進学者}} = \frac{2,500}{1\text{万}} \Rightarrow \text{A県の高校の大学進学者のうち、} \\ \text{25\%が地元大学へ進学した。}$$

$$\begin{array}{l} \text{地元占有率} \\ \text{(大学視点)} \end{array} = \frac{\text{地元出身者}}{\text{A県の大学の入学者}} = \frac{2,500}{5,000} \Rightarrow \text{A県の大学の入学者のうち、50\%} \\ \text{を地元高校出身者が占めている。}$$

例えばある県で、地元進学率が低かったとします。だからといって「県内の大学に人気がない」と性急に結論づけることはできません。ほかにも原因はいろいろ想定されますが、特に「そもそも大学(入学定員)が少ない」可能性があります。そこで入学者に対しての地元出身者の割合(地元占有率)をセットで見る必要があります。

例：「地元進学率＝低い」けれども「地元占有率＝高い」⇒「県内に大学が少ない」などが想定されます。

⑤P.6 各都道府県 大学進学者の他県への流出率

その県の高校から県外の大学に進学した人(＝流出者)の割合です。

③の地元進学率とは対になります。ランキングは逆になっただけ、割合は「100-地元進学率」になります。

⑥P.8 各都道府県の大学の他県からの流入率

その県の大学に県外の高校から入学してきた人(＝流入者)の割合です。

④の地元占有率とは対になります。ランキングは逆になっただけ、割合は「100-地元占有率」になります。

<「その他」の扱い>

③～⑥の各表で47都道府県の下にある「その他」は、外国の学校卒、高認合格者、専修学校高等課程修了者などを表します。実数は⑤で見ることができます。

各表で最下段の「計」を算出するにあたり、「その他」は以下次のように扱っています。

- | | |
|-------------------------------|--|
| ③地元進学率、⑤流出率の「計」・・・「その他」を除いて算出 | } いずれも逆の判断をした場合に、全国平均が
実際の印象とは乖離した数値が出てしまうため。 |
| ④地元占有率、⑥流入率の「計」・・・「その他」を含めて算出 | |

⑦P.10 各都道府県 大学進学における「流入者数－流出者数」

その県は大学進学時に入ってくる方が多い(流入超過)のか、出て行く方が多い(流出超過)のか。「流入者数－流出者数」で算出。地元進学者は含みません。短大は割愛しています。

※流入者数と流出者数の全国合計はイコールにはなりません(流入者数には「その他」(前ページ下参照)が含まれるため⇒全国合計は流入超過になる)。

<より具体的に把握するために>

本資料は全体を通じて、各県の流出入を以下の3つの要素で分析しています。

- (a) 地元進学者 … 実数は①②③④に掲載。
- (b) 流入者 … “ ⑥に掲載。
- (c) 流出者 … “ ⑤に掲載。

⑦は「(b)－(c)」。

ちなみに「(a)＋(b)＝その県の大学の入学者数(＝①の「計」)」、「(a)＋(c)＝その県の高校の大学進学者数(＝②の「計」)」になります。

たとえばA県が－1,000人の流出超過だった場合、「1,000人が県外に流出している」ということではないので注意。流出者はもっと多く、流入者との差が－1,000人ということです。

本資料でA県の各数値を確認すれば、(たとえば)「(a)地元進学者数＝1万人」、「(b)流入者数＝2,000人」、「(c)流出者数＝3,000人」、「大学の入学者数＝1万2,000人」、「高校の大学進学者数＝1万3,000人」ということがわかります。こうした数値を見ることで、「流出超過＝－1,000人」の状況が具体的に把握できます。

Part.3 全国児童・生徒数

⑧P.2 全国生徒数

各学校種の児童・生徒数は以下の合計です。

- 小学校 … 小学校、義務教育学校(1年～6年)、特別支援学校小学部。
- 中学校 … 中学校、義務教育学校(7年～9年)、中等教育学校前期課程、特別支援学校中学部。
- 高等学校 … 全日制、定時制、中等教育学校後期課程、特別支援学校高等部。

※高等学校の「4年生」は定時制。

※高等学校の通信制は学年別生徒数が不明(単位制が多い)のため含まない。